

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520481

研究課題名(和文) 年少者日本語教育の実践的研究－JSLカリキュラムの検証とプログラム開発－

研究課題名(英文) Practical study of Japanese Language Teaching for Children – The inspection of JSL(Japanese as a Second Language) curriculum and Program development–.

研究代表者

池上 摩希子 (IKEGAMI MAKIKO)

早稲田大学・日本語教育研究科・教授

研究者番号：80409721

研究成果の概要(和文)：

本研究は、JSLカリキュラムをもとにした実践を通して、各現場に見合った日本語支援プログラムを構築することを目的とする。具体的な活動としては、浜松市において初期指導後のJSL児童の算数指導について、教員グループと協議を重ねた。この結果、算数指導と日本語指導の連携の重要性が支援者グループに定着し、実践の記録を始めることができた。太田市や鈴鹿市では、市全体で取り組む支援システムの構築を支援し、同時に、JSL児童を担当する教員研修・養成の面においても貢献できた。

研究成果の概要(英文)：

The purpose of this study is to develop practical Japanese language teaching program for JSL children, on the basis of JSL curriculum. The results are as follows ; (1) At one elementary school, teachers found out that it is important to have dual focus on subject content (mathematics) and language (Japanese). Then they started to describe practical examples of mathematics class for JSL children(City of Hamamatsu). (2) Researchers made collaborative networking system between local education boards and university, on the other hand, the system contributed to JSL teacher development. (City of Ota, City of Suzuka)

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	1,600,000	480,000	2,080,000
21年度	800,000	240,000	1,040,000
22年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：教授法・カリキュラム、JSL、カリキュラム開発、支援体制

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本語を第一言語としない児童生徒が学校や地域で増加している状況下、日本語教育の領域においても、年少者日本語教育の抱える課題に注目が集まり、研究が進められている。その一方で、教育現場である学校や地域の教室の多くでは、教師や支援者が暗中模索する状況が続いている。

(2) 年少者対象のカリキュラムとしては既にJSLカリキュラム(『学校におけるJSL(Japanese as a second language)カリキュラム』文部科学省、2003、2007)があるが、カリキュラムの検証作業が十分ではなく、フィードバックが不足していることにより課題が少なくない。

2. 研究の目的

JSLカリキュラム小学校版を元にした日本語支援活動を展開する実践を小学校、および地域の支援の場で行い、実践の記録、教師や支援者との検討会などの作業を通して、各実践現場に見合った支援システムやプログラムを提案することで上記の課題を解決することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、関連諸分野の既成の枠組み内の解釈を越え、「日本語教育」に軸足を置く。即ち、

① 言語習得や学習状況に関するミクロレベルでの分析・解釈と、社会的文化的側面に関わるマクロレベルの分析・解釈とを関連付け、全体像を学際的な立場から記述する。

このミクロとマクロの両側面からのアプロ

ーチによって、年少者日本語教育を担っていく人材に求められる「資質」を挙げる。この資質は知識や教え方といった技能に留まらない領域横断的な知識と技能である。よって、

② 教育現場や教育行政担当者と連携し、現場教育の改善のための実践的活動を進めていく。

こうした方法で、上記のような知識と技能を養成するプログラムの作成・整備に必要な要因を抽出し、成果としての公表と共有をはかる。

4. 研究成果

本研究において研究組織グループが主なフィールドとしたのは、静岡県浜松市、群馬県太田市、三重県鈴鹿市であり、それぞれ学校や地域の現場を訪問し、調査・研究活動を展開した。浜松市においては初期指導を終えたJSL児童の教科指導に関して、特に算数の内容をどのように日本語指導と重ねていけるか、小学校教員グループと協議の場を作り、検討を重ねた。この結果、算数指導と日本語指導の連携の重要性と実践を記録する必要性が支援者グループに定着し、実践の記録を始めることができた。

太田市や鈴鹿市では、市全体で取り組む支援システムの構築を支援し、そこに日本語教育学的視点を織り込むことができた(具体的な成果の一例として、「5」に報告がある)。特に、鈴鹿市においては、「鈴鹿モデル」と称される日本語支援システムを教育行政・教育現場・大学の三者の連携のもとで構築し、市内のJSL児童生徒に対する日本語支援の内実を充実させることができた。同時に、JSL児童を担当する教員研修・養成の面においても、具体的な支援を始め、地域の特色に基づくシステムを構築する

ための貢献ができた。

この他、多数の地域において、訪問調査、関係者からの情報収集・情報交換を行ったが、当初の想像以上に JSL カリキュラムが浸透していない実情であったことは否めない。カリキュラムの意義や有効性について、どのようにすれば理解が促進でき、また普及させられるかは大きな課題である。最終的には、この点を共有し、今後の継続課題としていくこととした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

池上摩希子，末永サンドラ輝美 (2009) 「群馬県太田市における外国人児童生徒に対する日本語教育の現状と課題 - 「バイリンガル教員」の役割と母語による支援を考える-」『早稲田日本語教育学』4, 15-27.

[学会発表] (計 1 件)

川上郁雄・水井健次・中川智子・池上摩希子・野山広 「学校現場の日本語教育支援システムをどう築くか-JSL 児童生徒のための「鈴鹿モデル」の挑戦-」/2009 年度日本語教育学会春季大会パネル発表 2009 年 5 月；明海大学

[図書] (計 1 件)

川上郁雄・石井恵理子・池上摩希子・齋藤ひろみ・野山広 (編) 『「移動する子どもたち」のことばの教育を創造する-ESL 教育と JSL 教育の共振-』46 判 356 頁 定価 2,400 円 + 税 2009 年 3 月 ココ出版刊

[その他] ((1), (2)の詳細は(3)のHP参照)

(1) 研究会/研究組織内部での発表と報告

①2009 年 3 月 11 日

マイケル・ベーコン氏(ポートランド市教育

委員会イマージョン教育コーディネーター)を招聘し、イマージョン研究の紹介から JSL 教育全般を振り返り、また、次のステップを考えていくために参考とした。

②2009 年 6 月 7 日

バトラー・後藤裕子氏(ペンシルバニア大学)と 浜田麻里氏(京都教育大学)、市瀬智紀氏(宮城教育大学)・徳井厚子氏(信州大学)招聘)グループにお話をいただき、ESL 教育、JSL 教育双方における教員養成に関して、議論を展開した。

(2) 研究集会/外部に開いての発表と報告

①第 6 回研究集会 (2009 年 11 月 1 日) 「実践をどう語り、どう伝えるか」

年少者日本語教育における実践研究とはなにかという問いを立て、上記タイトルで開催。3 本の実践報告と全体討論ののち、當眞千賀子氏(九州大学)より講演をいただき、再度全体で討論を行った。

②第 7 回研究集会 (2011 年 2 月 27 日) 「実践をどう語り、どう伝えるか(2)」

第 6 回から継続しての問いに関して、JSL 児童の多く在籍する小学校現場(三重県鈴鹿市・静岡県浜松市)からの実践報告 2 本とそれを話題にしたラウンドテーブル形式での討論を行い、「実践を語る意味」を核にすえた協議を行った。

(①、②ともに予稿集を作成した)。

(3) ホームページ

研究組織メンバーで構成される「年少者日本語教育学を考える会」のウェブサイト立ち上げた (<http://www.gsjal.jp/kodomo/>)。このサイトは 20 年度末から作成を始め 21 年度に公開し、現在も研究集会などに関する情報や報告を公開している。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池上 摩希子 (IKEGAMI MAKIKO)
早稲田大学・大学院日本語教育研究科・教授
研究者番号：80409721

(2) 研究分担者

川上 郁雄 (KAWAKAMI IKUO)
早稲田大学・大学院日本語教育研究科・教授
研究者番号：30250864

(3) 研究分担者

齋藤 ひろみ (SAITO HIROMI)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：50334462

(4) 研究分担者

石井 恵理子 (ISHII ERIKO)
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号：90212810

(5) 研究分担者

野山 広 (NOYAMA HIROSHI)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・日本語教育研究・情報センター・准教授
研究者番号：40392542